

平成28年度 自己評価表

鳥取県立境高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>21世紀に生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路を実現する。 切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る 地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。 <p>校訓 「文武両道」「質実剛健」</p>	<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣・心身の健康管理の確立 <ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行と掃除等の取組み指導（声かけ等）を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 特にSHR時の担任の話を大切に。・様々な教育活動の中で、自他を愛し、人権を尊重する意識を高め育む。 学力向上による進路の実現 <ul style="list-style-type: none"> 授業の大切さ（学ぶことの大切さ）と進路保障、特に授業参観等で各教科の授業研究を進める。 目的別クラス編成を軸にした授業内容や展開方法を工夫し、生徒が理解しやすい指導を行う。 明確な進路意識を持たせ、3年間を見通した指導を行う。 部活動などの教育活動の振興 <ul style="list-style-type: none"> 県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信する。 地域のボランティア活動に積極的に参加する。また、部活動参加をオープンにし、地域の生徒の指導にあたる。 生活指導と併進して教育活動をさらに活性化。・学校生活の基盤である良好な人間関係を育成し、家庭と連携して生徒の指導にあたる。
---------------------------	---	---

年 度		当 初		評 価 結 果 (最終評価)			
評価項目	評価の具体項目	現状 (27年度の実績から)	目標 (28年度の目指す姿)	目標達成のための方策	達成状況	評価	改善方策
1. 基本的な生活習慣・心身の健康管理の確立	○挨拶の励行、服装・清掃指導等を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。	○頭髮服装に関する違反者はほとんどなく、全体的に守れている。遅刻に関しても、概ね良好だった。	○文化・体育活動の充実と自主活動の活性化	○生徒の自主活動を促し、生徒活動の充実を図る。	○生徒会執行部を中心とした生徒の自主活動（学校祭をはじめ中学生への学校ガイダンスなど）が充実	A	○服装再検査による個別指導の徹底 ○SNSの安易な使用によって相手のことを慮らない行為もあったため、校内指導だけでなく専門家の協力のもと情報モラルを徹底 ○生徒環境委員によるよびかけ等、日々の環境活動を充実 ○ボランティア体験や主権者教育など社会に参画する力を身につける取組の充実
	○自他を愛し、人権を尊重する意識を高める。	○より良い人間関係を築くためのソーシャルスキルトレーニングを実施し効果があった。	○基本的な生活習慣の確立	○服装・頭髪・挨拶等について生徒の自覚を高める。	○基本的な生活習慣の確立など規律ある高校生活が定着（服装検査の徹底）		
2. 学力向上による進路の実現	○授業開始までの学習準備を徹底する。	○授業開始時に遅れて入室したり教科書等の準備ができていない生徒がまだ見られる。	○規則等、決まりごとの遵守と自己管理意識の向上	○交通規則（法規）遵守、携帯電話・スマホ等使用上のモラルの向上を図る。	○学校周辺清掃等の取組をとおり、学校環境を組織的・計画的に整備	B	【以下の※は生徒・保護者・教職員等アンケート結果より】 ※規律ある高校生活でできた 生徒96.3% (+1.1) 教職員78.3% ※自他を大切にできた 生徒96.7% (+1.9) 保護者86.6% 教職員56.8% ※校内美化 生徒88.5% (+2.6) 保護者76.3% 教職員59.4%
	○環境改善や校内美化に対する意識を高める。	※「規律ある高校生活を送れた（生徒95.2%、保護者77.8%、教職員96.2%）」 ※「自他を大切にできた（生徒94.8%、保護者95.9%、教職員63.9%）」	○健康的な生活習慣の確立	○整理整頓、貴重品管理等、日常の生活意識の向上を図る。	○学校周辺清掃等の徹底、ゴミの分別・減量化を引き続き推進する。（平成25年度との比較で6%減の実現）		
	○授業研究を進め、希望する進路実現に繋がる学力を引き上げる。	○ゴミの減量化や消費電力削減で大きな成果があった。環境委員等が活躍して他の生徒の意識が向上した。	○個別面接の重視と進路目標の早期具体化	○研究授業と授業研究会の充実	○授業参観週間等を契機とした各教科代表による研究授業を実施し研究協議を深める。		
3. 部活動などの教育活動の振興	○授業内容や授業展開を工夫し、生徒の理解度を高める。	○ゴミの捨て方など一部で徹底できなかった場面もあった。	○外部人材（人材）の活用	○放課後講習の細分化を具体化し、適宜受講生徒の状況を把握し、講習内容を改善を推進する。	○目的別放課後講習の定着	A	○今年度から放課後講習の改善、面談指導の充実を重点的に実施→次年度も継続的発展的に展開 ○校外模試等の受験態度では改善を要する点も多いので、指導監督体制も必要に応じて変更したり、模試を受験する態度や雰囲気づくりに工夫が必要（模試・週明けテスト等での「罰則的」な指導を見直ししても良い時期） ○授業改革を積極的に行い、進路実現に向けて実感の持てる学習指導の構築 ○目的に応じた学力向上の充実に向けた指導体制づくり強化（日々の計画的指導や長期休業期間中の重点的指導を工夫改善） ○センター試験受験体制の見直しなど思い切った構内変革を検討
	○3年間を見通した指導により、日々の学習習慣を確立させる。	※「校外模試に対応できる学力養成がまだ不十分である。」 ※「希望進路の実現（支援）（生徒64.2%、保護者84.6%、教職員60.6%）」	○外部講師等による出前授業を契機とし、学習意欲を高める。	○主幹教諭等を中心とした個別面接を実施し、適格な進路指導を推進する。	○目的別放課後講習の定着		
	○小・中・高・大の連携により、人的交流や授業連携・研究交流を充実させ、教育活動の活性化を図る。	○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○主幹教諭等を中心とした部活動と学習活動の両立を図る。	○主幹教諭等を中心とした部活動と学習活動の両立を図る。		
3. 部活動などの教育活動の振興	*教科でつながる「鳥取発スクラム教育」	○一日2時間以上の家庭学習時間をしている生徒は全体では43.1%であった（習熟クラスでは97.6%）。（27年11月調査）	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○模試対策を取り入れ、受験に対する意識を高める。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	A	○部活動と学習活動の両立に向けた組織的取組の充実 ○硬式野球部の甲子園大会出場やヨット部の団体準優勝、男女ハンドボール部や吹奏楽部などの全国大会出場など部活動が活性化 ○スクールプロジェクトやスクラム教育など異校種間交流（連携）が今年度も充実、また保育実習等進路実現に密接につながりのある取組も充実 ○PTA活動や学校HP更新など連携・発信の充実
	*スクールプロジェクト（小学生との交流事業）	○年間を通して実施する週明けテスト（毎週月曜日実施）で、好成绩を維持し、学習のモチベーションを高めた生徒も多かった。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○目的別クラス編成に応じた授業展開を推進し、ノート点検・副教材・小テスト等を多角的に授業に取り入れ、授業を基軸とした学習習慣を確立する。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実		
	*中高連携学力向上プロジェクト	○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○主幹教諭等を中心とした部活動と学習活動の両立を図る。	○目的別クラス編成に応じた授業展開を推進し、ノート点検・副教材・小テスト等を多角的に授業に取り入れ、授業を基軸とした学習習慣を確立する。		
3. 部活動などの教育活動の振興	○PTA、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進める。	※「家庭学習できている（生徒60.6%、保護者52.3%、教職員21.2%）」	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○模試対策を取り入れ、受験に対する意識を高める。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	A	【アンケート結果より】 ※部活動充実 生徒96.3% (+3.8) 保護者87.4% 教職員86.5% ※校種間連携 生徒88.4% (+7.2) 教職員62.1% ※学校HP充実 保護者73.0% (+2.6) 教職員78.4% ※スクラム教育 生徒→「英語を使って他者と関わって楽しい」 27年度41.1% → 28年度43.4%
	*中高連携学力向上プロジェクト	○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○模試対策を取り入れ、受験に対する意識を高める。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実		
	○PTA、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進める。	○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。	○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○主幹教諭等を中心とした部活動と学習活動の両立を図る。	○目的別クラス編成に応じた授業展開を推進し、ノート点検・副教材・小テスト等を多角的に授業に取り入れ、授業を基軸とした学習習慣を確立する。		

評価基準 A:十分達成[90%以上] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[50%程度] E:目標・方策の見直し[40%以下]
 (※数値は「生徒・保護者・教職員等アンケート」結果の「良かった」等の割合。割合のあとの()内は昨年比。)